

人と人を繋ぐみちをつくろう -下水道で支えるまちづくり-

<概要>

私たちの生活は「みち」に支えられて成り立っている。「みち」にはいろいろな役割があり、中でもライフラインと呼ばれる上下水道・電気・ガスなどの供給施設は都市生活に不可欠なものである。だから、この供給施設の整備こそがより住みやすいまちをつくるのではないかと私は考える。そこで、全国的に見て、私の住む大分県の下水道普及率が低いという点に着目して、全国各地で行なわれている下水道整備を紹介しながら、下水の「みち」がつくるまちづくりというものを提案する。

<本文>

良い「まち」をつくるには、良い「みち」をつくるのが大切だと私は思う。

「みち」はただ単に、人やモノが動く通路として利用するだけに存在するわけではなく、人々の生活を支え、守るために様々な機能を併せ持っている。その機能とは、環境保全の機能であったり、防災の機能であったり、施設のための空間機能であったりする。

まず環境保全の機能というのは、住環境の維持や、街路樹などによる大気の浄化などをさし、環境にやさしいまちをつくることに繋がる。次に、防災の機能とは、災害発生時に避難や救助をするための通路としての機能や、火災の延焼防止など災害の拡大を抑え、遮断する機能のことをいう。これは、安全なまちをつくるために、必要な機能である。そして、施設のための空間機能とは、車以外の交通機関のための空間や、供給処理施設のための空間、情報通信施設のための空間、その他、信号や案内板を設置する空間のことを示し、より住みやすいまちをつくるために重要な役割である¹⁾。

私は、こういった「みち」の持ついろいろな機能の中から、供給処理施設のための空間機能に



写真-1 マンホール

ついて提案したい。

「供給処理施設」とは、「都市活動に不可欠な水、エネルギー源、生活物資等の供給施設及び処理施設」のことで、水道、電気供給施設、ガス供給施設、地域冷暖房施設、下水道、汚物処理場、ごみ焼却場などをいう²⁾。中でも下水道には、①雨水の排除による浸水防止、②汚水排除による生活環境の改善、③便所の水洗化による環境衛生の向上、④廃水処理による公共水域の水質保全などの役割がある。④の公共水域における水質の保全是水資源の適切な循環利用サイクルを確立する上で下水道に課せられた新しい役割として重要なものである³⁾。

今日、全国各地では下水道を有効利用するために様々な取り組みが行なわれている。一つは、下水道管の中に光ファイバーケーブルを敷設して、ポンプ場や下水処理場などの遠隔操作、監視などを行なおうとするものだ。下水道管の空間の開放とともに、下水道管理用の光ファイバーを活用して高度情報化社会に役立てる新たな取り組みである。二つ目は下水処理場の上部を多目的利用することである。下水処理場やポンプ場などの上部をテニスコートや野球場、ゲートボールコートなどのスポーツ施設や公園、温室、集会場などとして開放している。また、最近では下水処理場を防災空間として活用したり、市民プラザや武道館を建設したりするなど、地域社会に貢献もしている。三つ目は処理水の有効利用である。下処理水は水処理場内での再利用のほか、電車、トイレなどの洗浄水、工業用水、公園などのせせらぎ復活用水、消化・防火水、農業用水、融雪用水などとして再利用されている。そして、下水道の普及とともに増えつづける下水汚泥を有効利用することが四つ目である。従来のように埋め立てて処分するという対応策では、環境問題や土地確保などの多くの問題がある。そこで、汚泥を肥料やレンガなどに再資源化する技術が注目を集めている。それこそ、私たちの暮らしを支える道路などの社会基盤整備において、汚泥の建設資材の開発技術が進み、大都市などでは汚泥が路盤材、レンガなどとして実用化されている。また肥料や土壌改良資材としても実用化され、暮らしに潤いを与える緑地や農地を支えている⁴⁾。

全国各地でこのように下水道の整備が進む中、私の住む大分県の下水道普及率は全国平均に比



写真-2 中津市公共下水道事業における現地調査の様子

べ大きく立ち遅れている状況にある。公共下水道を実施する市町村のうち、地理的には沿岸部の市町村はほぼ着手済みであるが、内陸部は一部着手しているのみだそう⁵⁾。実際問題、下水道を建設し、維持管理することは、決して安易なものではなく、費用もかかるため、すぐに下水道の整備を行なうことが出来ないというのが現状である。しかし、下水道は私たちの生活において欠かすことの出来ない施設であるから、長い目でみて下水道建設を促進すべきだと私は思う。下水道のみならず、前述したような、「みち」の持つ様々な機能を十分に生かすことの出来る「みちづくり」にも力を入れるべきだと思う。そして、これが良い「みち」をつくることであり、良い「まち」をつくるための第一歩だと考える。

人と人との繋がりを持つという意味でも、これから良い「みち」がつくられることを願う。

参考文献

- 1) Think Our Street 推進委員会 : <http://www.tos.or.jp/>
- 2) 弘前市都市計画マスタープラン : <http://www.city.hirosaki.aomori.jp/tosimasu/PDF/4-P78-80.pdf>
- 3) 石井一郎（代表）：最新都市計画第3版，森北出版株式会社，pp.134-135，2000
- 4) 社団法人 下水道協会 : <http://www.jswa.jp/>
- 5) 大分県土木建築部 都市計画課 都市施設 : <http://www.pref.oita.jp/17500/shisetsu/shisetsu3.html>